

ワンドライブの自動起動を停止

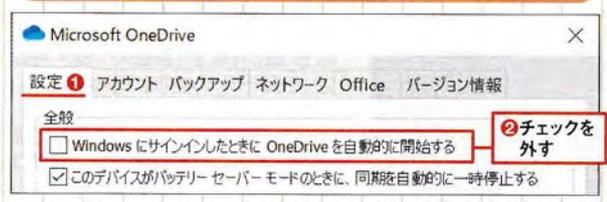
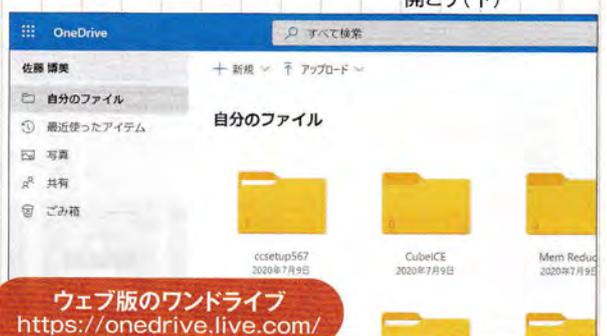


図5 ワンドライブのアプリは自動で起動する。無効化するには図3下の画面の「設定」タブを開き、「Windows にサインインしたときに OneDrive を自動的に開始する」のチェックを外す(12)。以降、ウィンドウズの起動時にワンドライブのアプリが常駐しなくなる



スタートメニュー

図6 ワンドライブをスタートメニューから起動すると(左)、クラウドとの同期が始まる。それが嫌なら、ウェブブラウザでワンドライブのページを開こう(下)



ウェブ版のワンドライブ

https://onedrive.live.com/

使わないならアンインストール



図7 ワンドライブをアンインストールするには、「設定」画面の「アプリと機能」メニューを開く。「Microsoft OneDrive」を選び(1)、「アンインストール」を押せばよい(2) [注2]

Windows 10 を使っていると、ユーザーが気付かないうちに個人情報がクラウドに送信される(図1)。それらを収集するマイクロソフトでは情報の悪用や外部への漏洩はないとしているが、そもそも勝手な収集が許せない人もいろいろ。初期設定のまま使わずに、プライバシー情報の送信を自分でコントロールしよう。

新規購入したパソコンは注意 勝手にアップされている

まずワンドライブの対策。ワンドライブは通常「OneDrive」フォルダーを同期(アップロード)対象として

設定変更でプライバシーを守る

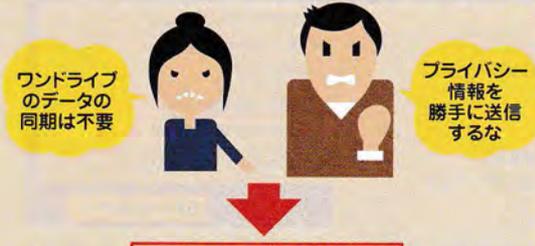


図1 ウィンドウズ10を使っていると、気付かないうちに個人データやプライバシー情報がクラウドに送信されてしまう。抵抗があるなら、勝手に送られないように設定を変更する

ワンドライブのバックアップを無効化



図2 新規購入したパソコンをマイクロソフトアカウントでセットアップした場合、ワンドライブのバックアップ機能が自動で有効になる。「デスクトップ」「ドキュメント」「ピクチャ」のフォルダー内がバックアップ対象で、アップロードされたファイルはチェックマークが付く

図3 バックアップを無効化するには、通知領域にあるワンドライブのアイコンをクリックし(1)、「ヘルプと設定」→「設定」とたどる(23)。開いた画面で「バックアップ」タブの「バックアップを管理」をクリックする(45)

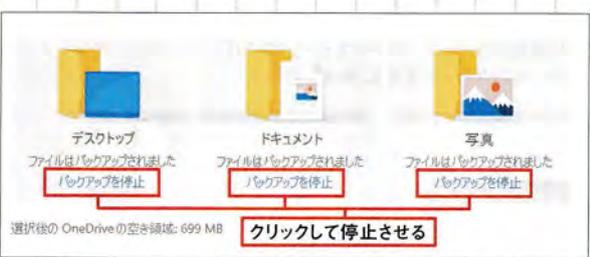
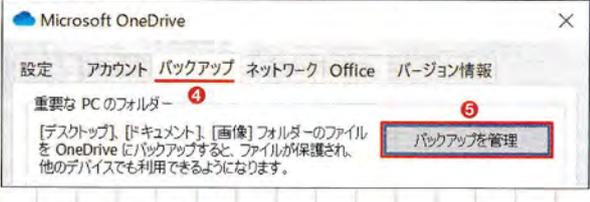
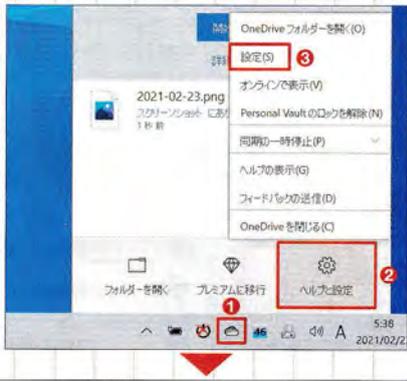


図4 開いた画面で「デスクトップ」「ドキュメント」「写真」のそれぞれで「バックアップを停止」をクリックし、続く画面でも「バックアップを停止」をクリックすればよい。これでバックアップの機能が無効化され、ファイルのチェックマークが消える

[注1] 自動バックアップを無効化すると、それまで「ドキュメント」などにあったファイルが見えなくなることがある。「OneDrive」フォルダー内にある同名のフォルダーにファイルが残っているので、そこから移す

個別にオフも一括オフも可能

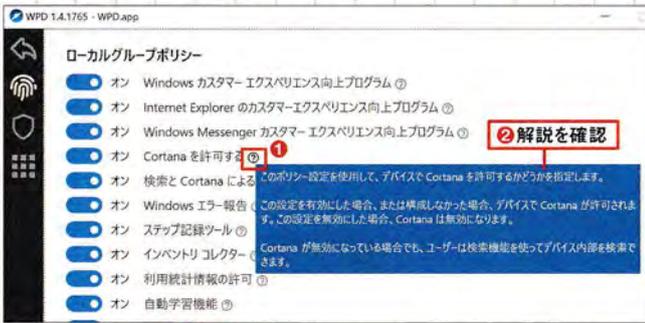


図11 開いた画面でプライバシー情報の右端にある「?」をクリックし、送信する情報の内容を確認する(1)(2)。左端のスイッチをクリックしてオフにすれば送信を無効化できる(3)。

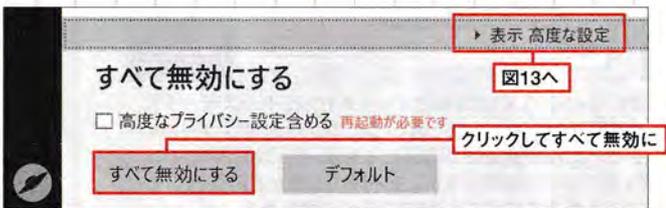


図12 まとめて無効化するには、画面下部の「すべて無効にする」をクリックするのが手取り早い。すべての項目がオフに切り替わる[注3]。元に戻すときは「デフォルト」をクリックする

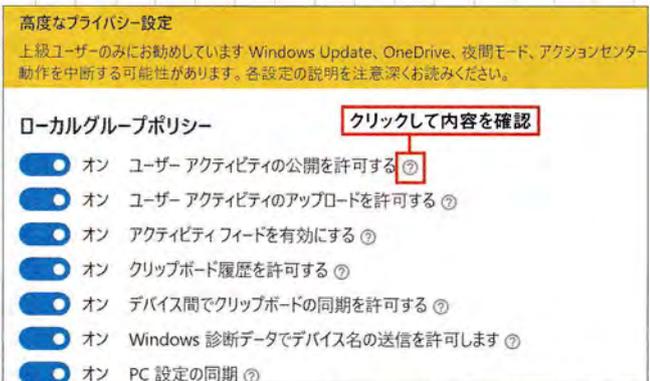


図13 追加の無効化機能も用意されている。図12で「表示 高度な設定」をクリックすると、新たな項目が追加されるので、図11と同様に「?」をクリックして送信する情報を確認してからスイッチをオフにする

利用時は復元ポイントを作ってから、各種の情報送信を個別もしくは一括でオフにする(図10、図12)。後でOSやアプリの動作で不具合が生じて、作成した復元ポイントで元の状態に戻せる。特に「高度なプライバシー設定」を変更するときは注意しよう(図13)。

プライバシー防御はフリーソフトを活用

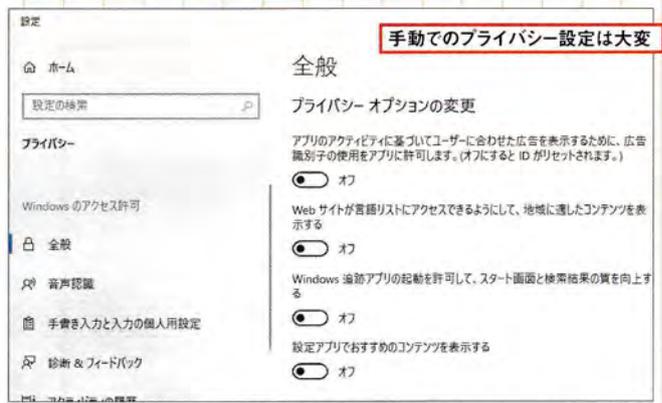


図8 プライバシー情報の送信を防ぐには、「設定」画面の「プライバシー」で各項目を無効化すればよい。ただ、項目が多くて説明もわかりづらいので、どれを無効化すればよいのか判断するのは難しい



図9 提供元のウェブサイトで「Download」をクリックし、圧縮ファイルをダウンロードする。それを展開し、中にある実行ファイルをダブルクリックして起動する

現在の状況を確認するにはファイルのアイコンに注目。名前の横に緑色のチェックがあれば、バックアップが有効でアップロード済みだ(図2)。図3と図4の操作で無効化しよう[注1]。ワンドライブを使う機会が少ないなら自動で起動しないようにする(図5)。必要になったら、スタートメニューからワンドライブのアプリを起動するか、ウェブ版を利用すればよい(図6)。まったく使わないならアンインストールする手もある(図7)。

[注2] 再インストールする場合はウェブ版のワンドライブを開き、そこからインストーラーをダウンロードする
[注3] 位置情報を無効化すると地図アプリが正常に使えなくなるなど、一部のアプリでは支障が出るので注意しよう